

最新 eVTOL 型ドローンを用いた医療機器輸送に関する 実証実験を実施

ー北海道・内浦湾における初のドローン輸送で輸送時間を大幅短縮ー

北海道に根ざした総合ヘルスケア企業グループとして事業を展開する株式会社ほくやく・竹山ホールディングス（所在地：札幌市中央区、代表者：代表取締役社長 眞鍋雅信、以下「ほくたけ」）は、連結子会社で医療機器卸売事業を展開する株式会社竹山（所在地：札幌市中央区、代表者：代表取締役社長 土田拓也、以下「竹山」）が、ドローンによる医療機器輸送に関する実証実験を、伊藤忠商事株式会社（所在地：東京都港区、代表者：代表取締役社長 COO：石井敬太、以下「伊藤忠商事」）と一般社団法人ドローン大学校（所在地：東京都港区、代表者：代表理事 名倉真悟、以下「ドローン大学校」）と共同で実施しましたので、お知らせいたします。



<使用ドローン「W198」>



<ドローンに医療機器を格納する様子>

日本では、2022年12月の改正航空法によりレベル4(有人地帯における目視外飛行)¹が解禁され、ドローンの活用領域が大きく拡大しております。また、医療機器はその性質から、輸送にあたって緊急性及び定時性の両方が求められる一方で、その物流を担うインフラ及び輸送人員の維持、並びに離島・山間・BCP対応での安定供給が課題となっております。ドローンによって、全自動かつ高速で医療機器を搬送することは、このような社会課題に大きく寄与する可能性を秘めております。

今回の実証実験は、伊藤忠商事を主体者、竹山およびドローン大学校を共同実施者、AIR WINGS 合同会社（所在地：東京都江戸川区、代表者：代表社員 林賢太、以下「AIR WINGS」）を協力企業とした共同実験として実施しました。実験内容としては、伊藤忠商事が2022年3月に資本業務提携・販売代理店契約を締結したドイツのWingcopter GmbH社製のeVTOL

¹ レベル4(有人地帯における目視外飛行)
市街地等の有人地帯における「目視により常時監視することなく飛行させる」無人航空機（ドローン）の飛行。

型ドローン「W198」を使い、竹山が提供する急性期脳梗塞血栓回収に用いる医療機器等を輸送しました。また、室蘭市潮見公園（イタンキ浜）から茅部郡森町（森漁協）まで、陸路では2時間以上かかる距離を、内浦湾を空路で横断することで、最短約28分で輸送することができました。

1 本プロジェクトにおける各社役割

伊藤忠商事	実証実験のとりまとめ、機材提供、運航
竹山	医療機器の監修、提供
ドローン大学校	無人航空機操縦者技能証明の取得に向けた教育
AIR WINGS	運航支援

2 輸送ルートイメージ



3 今回使用したドローンの仕様

製造会社	ドイツ Wingcopter 社
モデル	W198
最大積載量	最大 4.5kg
耐風性	平均 15m/s 突風時 20m/s
巡行速度（標準）	90km/h
最大飛行距離	110km
本体 L x W x H	167cm x 198cm x 66cm
本体重量	24.9kg

4 竹山のドローン事業の取組みについて

竹山では、ドローンが将来重要な輸送手段になると考え、今期新たにドローンプロジェクトを発足いたしました。これまでに、レベル4飛行（有人地帯における目視外飛行）に対応した国家資格「一等無人航空機操縦士」を4名が取得しており8月には更に2名取得予定です。竹山は、災害時・緊急時・遠隔地・輸送困難地域の輸送手段になりうるドローン事業にも取り組むことで、より一層地域に貢献してまいります。

株式会社竹山について

竹山は、「医療活動に対する支援を通じて、人々の健康な暮らしを守り、社会の健全な発展に貢献します」の企業理念のもと、ほくやく・竹山ホールディングスの医療機器卸売事業を担う企業として、今後も医療の現場を支えてまいります。

株式会社ほくやく・竹山ホールディングスについて

ほくやく・竹山ホールディングスは、北海道に根ざした総合ヘルスケア企業グループとして、医薬品卸売事業、医療機器卸売事業、薬局事業、介護事業、ICT事業の5つの事業を主に運営しています。わたしたちは「予防・診断・治療・調剤・リハビリ・介護」という地域における健康ネットワーク全体の円滑な活動を支えることにより、患者さんとご家族の満足の実現をめざします。

ほくたけグループはこれからも、「より健やかな社会へ（For a Healthier Community）」という企業スローガンの実現に向け、努力を続けてまいります。

以上

本件に関するお問合せは以下までお願いいたします
株式会社ほくやく・竹山ホールディングス 企画広報部
TEL：011-611-1010 E-mail：pr@hokutakehd.jp